

2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月7日

上場会社名 アルフレッサホールディングス株式会社

上場取引所 東

コード番号 2784 URL <https://www.alfresa.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 荒川 隆治

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務企画部長 (氏名) 佐々木 卓 (TEL) 03-5219-5102

四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 2022年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	1,332,419	3.4	10,227	12.2	11,488	4.9	7,001	0.2
2022年3月期第2四半期	1,288,706	—	9,117	—	10,956	—	6,988	—

(注1) 包括利益 2023年3月期第2四半期 15,558百万円(103.8%) 2022年3月期第2四半期 7,632百万円(—%)

(注2) 2022年3月期第2四半期の増減率については、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等の適用による会計方針の変更に伴い記載しておりません。

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	34.60	—
2022年3月期第2四半期	33.02	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	1,334,214	481,924	36.1
2022年3月期	1,303,991	471,835	36.2

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 481,638百万円 2022年3月期 471,593百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	27.00	—	27.00	54.00
2023年3月期	—	28.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	29.00	57.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,618,000	1.3	29,500	1.4	32,800	0.7	21,200	△34.1	104.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年3月期2Q	202,840,000株	2022年3月期	235,017,600株
2023年3月期2Q	471,062株	2022年3月期	32,648,047株
2023年3月期2Q	202,369,248株	2022年3月期2Q	211,671,955株

(注) 期末自己株式数および期中平均株式数の算定上控除する自己株式には、役員報酬BIP信託口が保有する当社株式を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) キャッシュ・フローの状況	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	7
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(四半期連結貸借対照表関係)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループでは、今年度新たに「22-24中期経営計画 未来への躍進 ～進化するヘルスケアコンソーシアム®～（以下「22-24中計」という。）」を策定し、グループ経営方針に掲げた「事業モデルの強化と新たな価値の創造」「グループ一体となった取り組みによる地域の健康・医療への貢献」「環境保全への取り組み等を通じたサステナブル社会への貢献」「ダイバーシティを中心とした人財戦略の推進」「コンプライアンスの遵守を最重要とする企業風土の醸成」に取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の流行が長期化し、収束の見通しが立たない状況のなか、生命関連商品を取り扱う社会インフラとしての使命を果たすべく、感染再拡大防止の対策を行うとともに、お取引先様および当社グループ従業員の安全を確保しながら医薬品等の安定供給に努めております。

当社は2022年10月1日付の機構改革において流通品質統括部を新設いたしました。当社グループ全体のGDP^{*1}対応およびPMS^{*2}施策の統括機能を当社に設置することで、グループ一体となった医薬品流通の品質管理に関するさらなる取り組み強化を図ってまいります。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高1兆3,324億19百万円(前年同期比3.4%増)、営業利益102億27百万円(同12.2%増)、経常利益114億88百万円(同4.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益70億1百万円(同0.2%増)となりました。

※1 GDP(Good Distribution Practice)：医薬品の適正流通(GDP)ガイドライン(平成30年12月28日厚生労働省事務連絡発出)。品質管理や偽薬混入防止等、医薬品の適正流通を定めたガイドライン。

※2 PMS(Post Marketing Surveillance)：医薬品が販売された後に行われる、品質、有効性および安全性の確保を図るための調査。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

① 医療用医薬品等卸売事業

医療用医薬品等卸売事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の流行が長期化するなか、医薬品の安定供給はもとより、新型コロナウイルスワクチンおよび治療薬の配送業務ならびに欠品や需給調整が続くジェネリック医薬品への対応に尽力しております。

また、スペシャリティ領域ならびにメディカル品へのリソース集中とDXによる事業変革を図るべく、「22-24中計」の重点施策として掲げた「既存事業の強化」「事業変革による収益化」「グループ全体での最適化・効率化・標準化」に取り組んでおります。

2022年8月、連結子会社の東北アルフレッサ株式会社(本社：福島県郡山市)は、2022年11月に仙台市若林区へ仙台本社を新設し、従来の本社との2本社制に移行することを決定いたしました。東北地方最大の都市である仙台市に本社を設置することで、お得意様への一層のサービス向上や製薬企業をはじめとするお取引先様とのさらなる連携強化を図り、東北地方の地域医療へこれまで以上に貢献してまいります。

当社グループでは、新たな医療サービスの開発に挑戦する様々なベンチャー企業との提携により、医療分野における課題解決への取り組みを進めております。2022年6月、連結子会社のアルフレッサ株式会社(本社：東京都千代田区)は医療機関専用のスマートフォンサービスである「日病モバイル」を提供する株式会社フロンティア・フィールド(本社：東京都港区)との間で資本業務提携契約を締結いたしました。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間の業績は、2022年4月に実施された薬価改定のマイナス影響があったものの、市場の伸長、独占禁止法違反による医療機関における入札指名停止期間の終了および診断薬等の「メディカル品」の需要拡大等の影響により増収となりました。また、売上総利益率維持に努めた結果、売上高1兆1,820億94百万円(前年同期比4.3%増)、営業利益79億94百万円(同13.7%増)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高83億38百万円(同5.1%増)を含んでおります。

② セルフメディケーション卸売事業

セルフメディケーション卸売事業におきましては、既存領域の高収益化と成長領域への挑戦を推進し、「22-24中計」の重点施策として掲げた「高収益化への取り組み」「グループ連携強化」「事業変革による収益力強化」に取り組んでおります。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間の業績は、新型コロナウイルス感染予防関連商品の需要の落ち込みや競合他社との競争激化による減収の一方で、利益・コスト面の管理を徹底したこと等により、売上高1,240億70百万円(前年同期比4.5%減)、営業利益11億58百万円(同6.0%増)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高3億5百万円(同7.5%増)を含んでおります。

③ 医薬品等製造事業

医薬品等製造事業におきましては、「次代の基盤創り」－企業価値の最大化－を目指し、「22-24中計」の重点施策として掲げた「安心・安全・誠実なモノづくり」「トータルサプライチェーンサービスの実現に向けた取り組み」「デジタルを活用した新たな取り組み」を推進しております。

2022年5月、連結子会社のアルフレッサ ファーマ株式会社(本社：大阪市中央区、以下「アルフレッサ ファーマ」という。)とサンノーバ株式会社(本社：群馬県太田市)は、アルフレッサ ファーマを存続会社とする吸収合併に基本合意し、2023年4月の統合を目指しております。両社が統合する新会社は、新たな価値の創造を通じて顧客満足を追求し、当社グループが掲げる「健康に関するあらゆる分野の商品・サービスを提供できるヘルスケアコンソーシアム[®]」の実現に貢献してまいります。

また、2022年9月、アルフレッサ ファーマは同社子会社で連結子会社の青島耐絲克医材有限公司(本社：中華人民共和国山東省青島市)の分公司を中国上海市に開設いたしました。上海分公司を新たな活動拠点として、中国における取扱い製品の拡充を実現し同国での事業拡大を図ってまいります。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間の業績は、製造販売権を承継した長期取載品の売上伸長および新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)抗原迅速検査キット「アルソニック[®] COVID-19 Ag」の需要が拡大した一方で、受託製造における減収や減価償却費等の経費増により、売上高236億16百万円(前年同期比3.3%増)、営業利益8億42百万円(同23.1%減)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高65億97百万円(同10.1%増)を含んでおります。

④ 医療関連事業

医療関連事業におきましては、予防からターミナルケアまでライフジャーニーにおけるすべてのステージに対応する「かかりつけ薬局」を目指し、「22-24中計」の重点施策として掲げた「在宅医療への取り組みによる事業の成長」「DXによる事業変革」「未病予防への取り組み」を推進しております。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間の業績は、調剤報酬改定および薬価改定に伴う減収の一方で、連結子会社のアポクリート株式会社(本社：東京都豊島区)による同社子会社(非連結子会社)からの事業譲受に伴う増収等の影響により、売上高178億79百万円(前年同期比6.4%増)、営業損失14百万円(前年同期は営業損失2億85百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産の部

資産は、前連結会計年度末と比較して302億22百万円増加し、1兆3,342億14百万円となりました。

流動資産は、80億96百万円増加し、1兆245億67百万円となりました。これは主として、「受取手形及び売掛金」が189億60百万円増加および未収入金等の「その他」が8億55百万円増加した一方で、「現金及び預金」が108億97百万円減少および「商品及び製品」が22億33百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、221億26百万円増加し、3,096億46百万円となりました。これは主として、物流センター等の設備投資などに伴い有形固定資産が90億53百万円増加および保有株式の時価上昇等に伴い「投資有価証券」が128億72百万円増加したことによるものであります。

② 負債の部

負債は、前連結会計年度末と比較して201億33百万円増加し、8,522億89百万円となりました。

流動負債は、205億52百万円増加し、8,233億65百万円となりました。これは主として、「支払手形及び買掛金」が272億42百万円増加した一方で、「未払法人税等」が22億48百万円減少および未払消費税等の「その他」が35億36百万円減少したことによるものであります。

固定負債は、4億19百万円減少し、289億23百万円となりました。これは主として、リース債務等の「その他」が4億16百万円減少したことによるものであります。

③ 純資産の部

純資産は、前連結会計年度末と比較して100億89百万円増加し、4,819億24百万円となりました。これは主として、「利益剰余金」が15億33百万円増加および保有株式の時価上昇等に伴い「その他有価証券評価差額金」が86億41百万円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、109億28百万円減少(前年同期は69億11百万円の増加)し、1,681億80百万円となりました。当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は、前第2四半期連結累計期間と比較して以下のとおりであります。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、増加した資金は106億97百万円(前年同期は209億26百万円の増加)となりました。これは主として、「税金等調整前四半期純利益」110億74百万円および「減価償却費」63億45百万円の計上があったこと等によるものであります。なお、営業活動におけるキャッシュ・イン・フローは前年同期と比較して102億28百万円減少しておりますが、これは主として、運転資本増減の影響および「法人税等の支払額」が増加したこと等によるものであります。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、減少した資金は153億26百万円(前年同期は73億25百万円の減少)となりました。これは主として、物流センター建設等の物流設備投資および製造事業強化のための製造設備投資を中心とした「有形固定資産の取得による支出」127億51百万円ならびにベンチャー企業への出資等の「投資有価証券の取得による支出」16億9百万円があったこと等によるものであります。なお、投資活動におけるキャッシュ・アウト・フローは前年同期と比較して80億1百万円増加しておりますが、これは主として、有形固定資産および投資有価証券の取得支出が増加したことによるものであります。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、減少した資金は63億85百万円(前年同期は69億47百万円の減少)となりました。これは主として、剰余金の配当を実施したこと等によるものであります。なお、財務活動におけるキャッシュ・アウト・フローは前年同期と比較して5億61百万円減少しておりますが、これは主として、借入金の返済額が減少したことによるものであります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	180,436	169,538
受取手形及び売掛金	602,488	621,449
商品及び製品	140,156	137,922
仕掛品	1,294	1,492
原材料及び貯蔵品	5,439	6,062
その他	88,908	89,763
貸倒引当金	△2,252	△1,661
流動資産合計	1,016,471	1,024,567
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	63,708	62,540
土地	70,018	71,318
その他（純額）	29,031	37,952
有形固定資産合計	162,758	171,812
無形固定資産		
のれん	2,913	2,792
その他	15,894	15,428
無形固定資産合計	18,807	18,220
投資その他の資産		
投資有価証券	87,284	100,157
その他	22,444	24,693
貸倒引当金	△3,774	△5,237
投資その他の資産合計	105,954	119,613
固定資産合計	287,520	309,646
資産合計	1,303,991	1,334,214

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	755,250	782,492
短期借入金	48	20
未払法人税等	10,922	8,673
賞与引当金	6,835	6,275
役員賞与引当金	407	195
株式給付引当金	44	-
役員株式給付引当金	59	-
その他	29,245	25,708
流動負債合計	802,813	823,365
固定負債		
株式給付引当金	-	36
役員株式給付引当金	-	44
独占禁止法関連損失引当金	3,994	3,994
退職給付に係る負債	8,075	7,990
その他	17,273	16,856
固定負債合計	29,343	28,923
負債合計	832,156	852,289
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,454	18,454
資本剰余金	101,660	57,720
利益剰余金	352,015	353,548
自己株式	△44,625	△685
株主資本合計	427,504	429,037
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	44,760	53,401
繰延ヘッジ損益	0	-
土地再評価差額金	△3,360	△3,360
為替換算調整勘定	200	351
退職給付に係る調整累計額	2,487	2,208
その他の包括利益累計額合計	44,088	52,601
非支配株主持分	241	285
純資産合計	471,835	481,924
負債純資産合計	1,303,991	1,334,214

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	1,288,706	1,332,419
売上原価	1,201,370	1,241,379
売上総利益	87,336	91,039
販売費及び一般管理費	78,218	80,812
営業利益	9,117	10,227
営業外収益		
受取利息	33	30
受取配当金	1,220	825
不動産賃貸料	305	297
その他	494	330
営業外収益合計	2,054	1,483
営業外費用		
支払利息	39	34
不動産賃貸費用	94	93
その他	81	95
営業外費用合計	215	222
経常利益	10,956	11,488
特別利益		
固定資産売却益	46	104
投資有価証券売却益	153	237
特別利益合計	199	341
特別損失		
固定資産売却損	0	15
固定資産除却損	83	37
減損損失	16	1
投資有価証券評価損	664	695
その他	77	5
特別損失合計	842	755
税金等調整前四半期純利益	10,313	11,074
法人税、住民税及び事業税	6,833	8,035
法人税等調整額	△3,506	△4,005
法人税等合計	3,326	4,029
四半期純利益	6,986	7,045
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,988	7,001
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1	43

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	681	8,641
繰延ヘッジ損益	0	△0
為替換算調整勘定	73	150
退職給付に係る調整額	△109	△278
その他の包括利益合計	645	8,512
四半期包括利益	7,632	15,558
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,634	15,514
非支配株主に係る四半期包括利益	△1	43

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	10,313	11,074
減価償却費	5,940	6,345
減損損失	16	1
のれん償却額	314	252
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△444	871
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△239	△559
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△261	△212
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△507	△419
受取利息及び受取配当金	△1,253	△855
支払利息	39	34
固定資産売却損益 (△は益)	△45	△88
固定資産除却損	83	37
投資有価証券売却損益 (△は益)	△145	△232
投資有価証券評価損益 (△は益)	664	695
売上債権の増減額 (△は増加)	△7,715	△20,392
棚卸資産の増減額 (△は増加)	1,861	1,412
仕入債務の増減額 (△は減少)	8,725	27,242
その他	5,164	△5,636
小計	22,509	19,571
利息及び配当金の受取額	1,255	858
利息の支払額	△39	△33
法人税等の支払額	△2,800	△9,699
営業活動によるキャッシュ・フロー	20,926	10,697

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△408	△406
定期預金の払戻による収入	403	404
有形固定資産の取得による支出	△6,131	△12,751
有形固定資産の売却による収入	209	182
無形固定資産の取得による支出	△738	△1,385
長期前払費用の取得による支出	△150	△33
投資有価証券の取得による支出	△881	△1,609
投資有価証券の売却による収入	312	741
貸付けによる支出	△21	△705
貸付金の回収による収入	114	268
その他	△33	△30
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,325	△15,326
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	50	-
長期借入金の返済による支出	△536	△28
リース債務の返済による支出	△744	△888
自己株式の取得による支出	△1	△1
自己株式の売却による収入	0	0
配当金の支払額	△5,715	△5,468
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,947	△6,385
現金及び現金同等物に係る換算差額	39	86
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	6,692	△10,928
現金及び現金同等物の期首残高	169,060	179,108
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	218	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	175,971	168,180

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結貸借対照表関係)

(偶発債務)

連結子会社であるアルフレッサ株式会社は、2021年11月9日、独立行政法人国立病院機構(NHO)または独立行政法人労働者健康安全機構(JOHAS)が運営する「九州エリア」に所在する病院が調達する医薬品に関して独立行政法人国立病院機構本部が行う入札等において、独占禁止法違反の疑いがあるとして、公正取引委員会の立入検査を受けております。当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。検査は継続中であることから、現時点ではその影響額を合理的に見積ることは困難であります。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2022年6月21日開催の取締役会決議に基づき、2022年7月15日付で、自己株式43,940百万円(32,177千株)を消却いたしました。この結果、当第2四半期会計期間末において資本剰余金が57,720百万円、自己株式が685百万円となっております。

(セグメント情報)

1. 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注2)
	医療用 医薬品等 卸売事業	セルフメ ディケーシ ョン卸売事業	医薬品等 製造事業	医療関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,125,417	129,617	16,871	16,799	1,288,706	—	1,288,706
セグメント間の 内部売上高又は振替高	7,932	284	5,992	—	14,209	△14,209	—
計	1,133,350	129,901	22,864	16,799	1,302,916	△14,209	1,288,706
セグメント利益又は損失(△)	7,031	1,093	1,096	△285	8,934	182	9,117

(注1) セグメント利益の調整額182百万円には、セグメント間取引消去92百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用90百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注2) セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注2)
	医療用 医薬品等 卸売事業	セルフメ ディケーシ ョン卸売事業	医薬品等 製造事業	医療関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,173,756	123,764	17,018	17,879	1,332,419	—	1,332,419
セグメント間の 内部売上高又は振替高	8,338	305	6,597	—	15,240	△15,240	—
計	1,182,094	124,070	23,616	17,879	1,347,660	△15,240	1,332,419
セグメント利益又は損失(△)	7,994	1,158	842	△14	9,981	245	10,227

(注1) セグメント利益の調整額245百万円には、セグメント間取引消去23百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用222百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注2) セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。